

**中国地方有数の精密プレス金型メーカー。
自動車部品向けを中心に大型金型の製作、難加工材対応などを
得意とする。昨年9月、2ポイントリンクモーション順送機として
世界最大級の1600トンプレス機を導入し、トライアルによる
量産環境を整備。さらなる売り上げ増をめざしている。**

株式会社 ササヤマ

大型金型、ウルトラハイテン材 対応などに強み

(株)ササヤマは海外を含め約60社の顧客を持つ精密プレス金型メーカーである。最長のもので4,500ミリに及ぶ大型金型やウルトラハイテン材、アルミ材、ステンレス材などの難加工品の金型製作を得意とする。売上高の約80%を占める自動車部品向けのほか、熱交換器、エコ給湯器などの弱電関係の金型も製作する。技術力だけでなく、従業員が働きやすい職場づくりの先覚企業としても知られる。2010年には全国の中小企業の中から財務的、社会的に優れた成果を上げている企業に贈られるグッドカンパニー賞(優秀企業賞)を受賞した。この賞の受賞企業は、鳥取県内では制度が始まった1967年以来、同社が3社目である。

家電から自動車部品へ

笹山勝社長の父親の笹山勝紀氏が1969年に創業。

今日まで一貫して精密プレス金型製作の専業としての道を行ってきたが、その道のりには紆余曲折があった。創業当時はコピー機のシャーシから鍋、釜まであらゆるものの金型製作を手がけたが、その後は電子レンジ、洗濯機、冷蔵庫など白物家電向けが中心になる。これらの需要が一段落すると、2000年から12年頃にかけて薄型テレビ向け金型製作が事業の柱になる。一時は大画面薄型テレビの背面パネル向け金型で世界シェアの7割を確保したこともあった。

ところが、2010年を境に需要が急速に減り、12年にはゼロになった。「いつかはなくなるだろうと、頭の片隅では考えていましたが、まさかこれほど急激に減るとは思っていませんでした」と笹山勝社長は振り返る。こうした家電関係の金型需要に替わって、主力事業になったのがシートやドア部品などの自動車部品だ。家電関係の金型では国内で最も大きなものを作ってきたが、その技術が自動車部品の大型順送金型に活かされたのである。



▲ PMX-L2-1600トンリンクモーションプレス(ボルスター4500×1800、400mmストローク)+レバラーフィーダ板幅1300mm 板厚4.5mm